

福岡女子大学附属図書館ニュース

図書館、美術館、ラーニング・コモンスの情報をお届けします

Fukuoka Women's University Library News

2023.3

31



Contents

- 1 表紙
- 2 紡ぐ美術館 本と芸術文化のはざままで(若竹 雅宏)
- 3 企画展示
- 4 ラーニング・コモンスNews
- 5 Q&A 学生・図書館懇談会の話題より
教員著作コーナーより
- 6 学生委員の活動紹介
図書館部門の活動紹介
- 7 美術館部門の活動紹介
- 8 2024年度に10周年を迎えるランゲージ・カフェは
FWUの“基本のき”に!(金光 真美)
附属図書館の1年



紡ぐ美術館 本と芸術文化のはざままで

附属図書館副館長・美術館部門長(環境科学科 准教授) 若竹 雅宏

「そういえば、福岡女子大学って、図書館の中に美術館があるらしいよ！」 そんな声が聴こえてくるとかこないとか・・・。噂は絶えませんが、福岡女子大学美術館は、現在の新しい図書館棟が竣工した2014年から2年後の2016年にオープンしました。開館後7年が経ち、所蔵品もその間増え続け、2023年3月現在において466点を数えるまでになりました。彫刻121点、絵画231点、書29点、能面74点、茶器11点と、その種類も多様となっています。そして、これら所蔵品は、図書館棟を中心に、講義棟、地域連携センター、大学会館に展示され、その存在感は増しています。

この様な本学の美術館ですが、美術館としてはユニークな特徴を持っています。私の専門であります「建築計画学」の視点から見ると、①専用の空間を持たない点、②保有する美術作品に触れることができる点、③誰もが自由に利用できる空間に美術品が設置されている点、④自然光の中で作品を鑑賞することができる点等が挙げられます。これらの特徴は、現代の美術館の姿からは想像しにくいものですが、これこそが福岡女子大学美術館が他に誇れるものであると思っています。

そして、もう一つ本学美術館の特徴として忘れてはいけないものがあります。それは図書館と一体になっているという点です。本学の新しいキャンパス構想のコンセプトとして、図書館は「多様で活動的なコミュニケーションを誘発する場の象徴」として位置づけられました^{注1}。つまり、この新たに誕生した美術館は、図書館との関係を無視して生まれることはできず、むしろそれを活用した形で生まれました。しかも、これは歴史からみても必然の出来事でした。美術館(当初は博物館)の始まりは、紀元前3世紀頃のアレクサンドリアのムセイオン(Museion)という学問研究所内(蔵書数50~70万の大図書館)にある付加的な展示物にその始まりがあるとも言われています^{注2}。したがって図書館の中に美術館が存在することは、ごく自然なことでした。本学においても2019年に美術館が附属図書館の組織下に入ったことで、機関-事業-施設空間が三位一体のあるべき姿となりました。これにより、大学が持つ「知」と「美」が一体となって社会に貢献していく体制が整い、「動」きもより生まれることとなりました。

さて、いかがでしょうか?福岡女子大学美術館について、少し理解を深めていただけのではと思います。そこで、ここからは多くは語れませんが、美術館部門の活動についてご紹介したいと思います。

美術館において現在定期的に企画している展示は、毎年4月頃から6月頃にかけての「春の企画展」のみとなっています。この「春の企画展」は、コロナ禍の関係もあり2年ぶりではありましたが、本年(2022年)度は「十五代 亀井味楽展」を開催することができました(写真①)。関連企画では「お茶会」を催し、おかげ様で盛況の中、執り行うことができました。しかしこの「春の企画展」は年度の初めに行なわれるため、終わってしまうと空間に静寂が戻り淋しさを覚えます。その中において偶然が重なり、2021年12月に「書家・中村江月氏の追悼展」、2022年3月に「博多慕情・吉川幸作展」(写真②)を行うことができ、大きな反響をいただきました。やはり空間は生きていないといけな、そう強く思った次第です。

また、附属図書館の「知」と「美」の活動を大学キャンパス内にとどまらず、地域に広く知ってもらいたいと思い、現在、美術館のANEX的な位置づけで、UR都市機構・香椎若葉団地集会所内にあるコミュニティライブラリーに作品を展示しています。この展示作品の選定と展示レイアウト・デザインは、美術館部門の学生委員が手がけました(写真③)。是非、一度足を運んでもらえたらと思います。

以上の様に、附属図書館・美術館部門は、特に「美」を中心としながら、皆さまのご支援とご協力のお陰で、学内外に「多様で活動的なコミュニケーションを誘発する場」づくりの貢献ができてつつあります。今後も、地元福岡の芸術文化に関わる企画を通して、皆様の感性の刺激につながる様な取り組みを行っていきたく思います。附属図書館が織りなす「知・美・動」の今後にご期待ください。

注1 「多様な価値観を育むキャンパスの創造(福岡女子大学 図書館棟)」, 新建築(2015.6), 新建築社, p.176, 2015.6

注2 岡田光正ほか「現代建築学 建築計画2」, 鹿島出版会, p.304, 1991.6



写真①: 「十五代 亀井味楽展」



写真②: 「博多慕情・吉川幸作展」フライヤー



写真③: 学生委員による展示デザイン
(UR都市機構 香椎若葉団地集会所)
コミュニティライブラリー

企画 展示

焼き物から見る日本の伝統文化

図書館棟1階にて、昨年6月から7月にかけて開催された、本学美術館による企画展「十五代 亀井味楽展」(※1)にちなみ、図書館1階円型書架にて「焼き物から見る日本の伝統文化」と題する企画展示を開催しました。「高取焼」に関する本、伝統工芸や茶道に関する本など、様々な図書の展示を行いました。

図書館の学生スタッフの皆さんが試行錯誤して作り上げた、焼き物や日本の伝統文化をテーマとする手作り感あふれる展示空間は、来館された亀井味楽氏ご本人をはじめ、関連イベントの「初めての茶道」(※2)の参加者の皆様にもご好評いただきました。次年度以降も本学美術館の企画展にちなんだ展示を開催する予定にしています。図書館にお越しの際は、ぜひ展示コーナーにお立ち寄りください。

(※1) 福岡市内に窯(味楽窯)を構える茶陶「高取焼」(黒田藩の御用窯として繁栄。400余年の歴史を基盤に、伝統を守りながら革新的表現

に挑み続けている)の現当主の十五代 亀井味楽氏(本学客員教授)の作品や、先代の十四代、先々代の十三代、そして十六代の亀井久彰氏の作品を紹介した。

(※2) 昨年7月、図書館棟1階カフェ「Nanの木」前のテラススペースにて開催された「十五代 亀井味楽展」の関連イベント。茶道の先生方がお茶の作法等について解説を行うとともに、参加者には味楽窯の茶器にてお茶が振る舞われた。



森崎和江さん追悼展示

図書館1階の階段そばにて、昨年6月15日に逝去された詩人・作家の森崎和江さんの追悼展示を行っています。森崎さんは、1947(昭和22)年に本学の前身である福岡県立女子専門学校を卒業し、その後福岡を拠点に、詩やラジオドラマの脚本、ノンフィクション、ルポルタージュ作品等の幅広い分野で活躍しました。



本学の誇る偉大な卒業生を追悼し、本館の所蔵する森崎和江さんの作品、また森崎さんについて書かれた著作の一部を展示しています。図書館の学生スタッフの皆さんにご協力いただき、森崎さんの思想や作品の世界観が伝わる充実した展示空間が出来上がりました。この機会にぜひ手にとってご一読ください。

本学の誇る偉大な卒業生を追悼し、本館の所蔵する森崎和江さんの作品、また森崎さんについて書かれた著作の一部を展示しています。図書館の学生スタッフの皆さんにご協力いただき、森崎さんの思想や作品の世界観が伝わる充実した展示空間が出来上がりました。この機会にぜひ手にとってご一読ください。



学生委員企画「読書マラソン」と「世界『文学』地図」

昨年12月、図書館1階(BBCコーナーのそば)にて、図書館部門の学生委員4名による2つの企画「読書マラソン」(※1)と「世界『文学』地図」(※2)を開催しました。どちらの企画でも、多くの方が図書の推薦文をお寄せ下さり、充実した展示コーナーが出来上がりました。



推薦文の募集は終了しましたが、図書の展示はしばらく続ける予定です。図書館にお越しの際は、学生委員の皆さんの素敵なアイデアが散りばめられた展示コーナーをぜひ一度ご覧ください。

(※1) 期間内に図書館の本を読んで短い感想文を提出すると、冊数に応じて景品がもらえる、読書推進のための企画。

(※2) 本学教職員や学生の皆さんにお薦めの海外文学作品を紹介していただき、展示コーナーにて推薦された図書やその国の文化等の紹介を行う企画。

(※1) 期間内に図書館の本を読んで短い感想文を提出すると、冊数に応じて景品がもらえる、読書推進のための企画。

(※2) 本学教職員や学生の皆さんにお薦めの海外文学作品を紹介していただき、展示コーナーにて推薦された図書やその国の文化等の紹介を行う企画。





図書館1階にある本学の新たな学びの場「ラーニング・commons」をご存知ですか。

複数の学生や教員がつどい、主体的に学習活動を行うことのできる「ラーニング・commons」は、様々なテーマについてのディスカッション、プレゼンテーションの練習、また語学の練習など、幅広い学習スタイルを可能にする空間です。机や椅子のレイアウトを変更し、ミニ講演会や公開講座等、小規模なイベントの開催も可能です。

コロナ禍の影響による規制が少しずつ緩和されてきていることから、今年度は対面型のイベントを複数回開催することができました。

「ラーニング・commons News」第7回目の今回は、今年度開催した対面型のイベント等について紹介します。今後もこのように本学のラーニング・commons コーディネーター(※)が関わる様々なイベントを開催する予定ですので、ご興味のある方はぜひご参加ください。

(※本学学生の主催する言語・文化学習のための活動(Language Cafe)のサポート、多様な学びの場を提供する学内イベントの企画等、学内のアクティブ・ラーニングを活性化するための様々な活動を行っています。詳しくは、本誌8ページ「ラーニング・commonsから」をご参照ください)

FWU100周年イベント「翻訳家 上原裕美子氏 講演会・対談」を開催しました

本学の100周年イベントとして、翻訳家の上原裕美子氏をお招きし、トークイベントを開催しました。「ずっと学び続ける仕事 — 新しい価値観を提示するノンフィクションの翻訳」と題する講演では、翻訳家になった経緯や翻訳の仕事



の仕事が続けるうえで大切にしていること等を、親しみやすい語り口でお話してくださいました。常に「学び続ける」姿勢を大切にし、1冊1冊に真摯に向き合い続けてきた上原氏の言葉からは、「翻訳」の仕事のもつ魅力や奥深さが感じられ、講演を食い入るように見つめながら、時にメモを取りつつ、一生懸命に話を聞いている学生達の姿がとても印象に残りました。

イベント後半には、前任校にて学生時代の上原氏と出会い、それ以来長年にわたり交流を続けている本学図書館長の長岡真吾教授が登場し、和気あいあいとした楽しい雰囲気の中で対談が行われました。最後には参加学生より様々な質問が飛び交い、時間があつという間に過ぎてしまうような盛況の会となりました。



女性リーダーシップセンターの品川教授によるセミナーが開催されました

本学「女性リーダーシップセンター」副センター長の品川啓介教授による「イノベーション」をテーマにしたセミナーが複数回開催されました。ビジネスや研究開発等の分野で大きな注目を集める「イノベーション」の概念について、具体的な事例を交えつつ、親しみやすい語り口で分かりやすくお話しください、いずれの回も、参加した学生や教職員の笑顔が絶えないアットホームな雰囲気のセミナーとなりました。

このようにラーニング・commonsでは、机や椅子のレイアウト等を変更し、小規模な講演会や公開講座、講習会等のイベントを行うことが可能です。学生も含め、学内者であればどなたでも利用可能となっていますので、ぜひご利用ください。



FWU100周年イベント「関美和氏 講演 & TALK SESSION」を開催しました

本学の100周年イベントとして、世界的なベストセラー『Factfulness: 10の思い込みを乗り越え、データを基に世界を正しく見る習慣』(日経BP社、2019年)の訳者の一人である、翻訳家の関美和氏をお招きし、トークイベントを開催しました。「Giving Back: My Story」と題する講演では、翻訳家としての経験だけでなく、これまでの生い立ちや海外での勤務経験、現在携わっているプロジェクト等、関氏の人となりが伝わる様々なエピソードについて流暢な英語で語ってください、参加した多くの学生や教職員等が熱心に聞き入っていました。



「TALK SESSION」の時間には向井学長が登場し、本学学生2名を交え、和やかな雰囲気の中、笑いの絶えない楽しい会話が続き、質疑応答の時間には、学生や英語教員等からの質問が飛び交い、イベントの終盤まで日本語と英語とを交えた会話が繰り広げられました。穏やかな物腰で、時にユーモアを交えながら流量な英語を操る関氏の姿に、参加した多くの学生が大変刺激を受けた様子でした。想定以上に多くの学生や教職員の参加があり、今年度で最も参加人数の多いイベントとなりました。



Q & A

福岡女子大学附属図書館 もっとこうしたい

(2022年12月7日 学生・図書館懇談会の話題より)

Q 図書・雑誌が置かれている場所(配架場所)を知らない、うまく探せない学生が多いため、講習会にて図書・雑誌の探し方を教えてほしい。

A 図書・雑誌が置かれている場所(配架場所)をうまく探せない学生のために、現在学生委員の皆さんと協力し、図書館内の配架場所の表示をより分かりやすくするための企画を進めています。また図書・雑誌の探し方を学生の皆さんにいかに分かりやすく伝えていくかについては、今後も検討を進めさせていただきます。



Q 図書館ホームページに掲載されている「マイライブラリ」の機能は、とても便利なのに知らない学生が多い。周知が足りないのではないかな。

A 「マイライブラリ」(*)は、学生の皆さんにぜひご活用いただきたい大変便利な機能であるため、今後学内周知を図りたいと思います。

(*) オンライン上で、図書の返却期限の確認や貸出期間の延長、貸出中の資料の予約、文献取り寄せ(ILL)の申込等を行うことを可能とするシステム。

Q ラーニング・commonsのイベントとして、読書会を開催してほしい。読みやすい本については学生だけで実施しても良いが、難解な本(古典作品等)を読む場合は、専門の教員にも参加してほしい。

A 学生の皆さんのニーズを確認しながら、どのような本を選ぶか、いつ頃実施するか等について、検討を進めさせていただきます。

Q 試験前に席が足りていないような気がするので、何か対応してほしい。試験前に一部の学生が長時間席を使用しているのも気になる。

A 試験前の座席不足、一部の学生による座席の占有については、状況を確認し、適宜対処いたします。

教員著作コーナーより

今年度も、本学の先生方が執筆や編集等にたずさわった図書や雑誌をご寄贈いただきました。皆さんもぜひ手に取ってみてください。

大久保順子 教授

假名草子集成、第68巻
柳沢昌紀、飯野朋美、大久保順子、他(編)
ISBN 9784490307955 東京堂出版 2022年10月

片桐義範 教授

臨床栄養学 改訂第3版(健康・栄養科学シリーズ) / 国立健康・栄養研究所監修
中村丁次、川島由起子、外山健二(編)
ISBN 9784524241965 南江堂 2019年3月

片桐義範 教授

ステップアップ臨床栄養管理演習：基本症例で学ぶ栄養管理プロセスの実際 第2版
永井徹、長谷川輝美(編著)
ISBN 9784767906829 建帛社 2020年2月

片桐義範 教授

在宅、施設、病院で応用できる栄養管理プロセス：理論・活用・症例
石長孝二郎、片桐義範(編著)
ISBN 9784767962146 建帛社 2020年3月

片桐義範 教授

演習で学べる在宅栄養支援：地域共生社会における管理栄養士の役割
寺本房子、他(編著)
ISBN 9784767906546 建帛社 2020年5月

片桐義範 教授

臨床栄養学実習：傷病者のnutrition care process演習(管理栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラム準拠、第8巻)
塚原丘美、新井英一、加藤昌彦(編)
ISBN 9784263720356 医歯薬出版 2021年3月

片桐義範 教授

ステップアップ臨床栄養学実習：栄養診断に基づく栄養・食事計画 第2版
桑原節子、永井徹(編著)
ISBN 9784767907123 建帛社 2021年12月

片桐義範 教授

臨床栄養学：Nutrition Care Processに沿った傷病者の栄養管理(管理栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラム準拠、第7巻)
塚原丘美、新井英一、加藤昌彦(編)
ISBN 9784263720349 医歯薬出版 2022年1月

片桐義範 教授

栄養管理プロセス
木戸康博、中村丁次、寺本房子(編)
ISBN 9784804114453 第一出版 2022年4月

河原梓水 講師

狂気の倫理：「愚か」で「不可解」で「無価値」とされる生の肯定
小西真理子、河原梓水(編著)
ISBN 9784771036550 晃洋書房 2022年8月

金希京 准教授

한국어교육의 현황과 과제：재일 한인을 위한 교육 정책 고찰 / 韓国語教育を巡る現状と課題：在日韓国人の教育政策に関する考察
金希京(著)
ISBN 9791169020015 이세의 나무 2022年3月

金希京 准教授

論文執筆のガイドブック
金希京(著)
ISBN 9791169020022 이세의 나무 2022年3月

辻信一 教授

新漁業法
辻信一(著)
ISBN 9784797223989 信山社出版 2022年10月

辻信一 教授

漁業法制定史：漁業の持続可能性を求めて(上巻)
辻信一(著)
ISBN 9784797282412 信山社 2021年2月

辻信一 教授

漁業法制定史：漁業の持続可能性を求めて(下巻)
辻信一(著)
ISBN 9784797282429 信山社 2021年2月

橋本直幸 准教授

一語から始める小さな日本語学
金澤裕之、山内博之(編)
ISBN 9784823411489 ひつじ書房 2022年8月

橋本直幸 准教授

言語学・言語発達学(Crosslink 言語聴覚療法学テキスト)
岩田一成、岩崎淳也(編)
ISBN 9784758320702 メジカルビュー社 2022年12月

濱田俊 教授

栄養学の基本：人体の理解と栄養学の基礎(管理栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラム準拠、第2巻)
南久則、下田姓誠也、叶内宏明(編)
ISBN 9784263720295 医歯薬出版 2022年9月

山根健至 准教授

現代アジアをつかむ：社会・経済・政治・文化35の 이슈
佐藤史郎、石坂晋哉(編)
ISBN 9784750353210 明石書店 2022年3月

和栗百恵 准教授

世界で語る世界に語る：ヒューマン・スタディーズ
神本秀爾、河野世莉奈、宮本聡(編)
ISBN 9784867350249 集広舎 2022年3月

和栗百恵 准教授

学生の心に火を灯す：早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター20年の挑戦
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター(編)
ISBN 9784792361242 成文堂 2022年10月

学生委員の活動紹介

本学附属図書館は、2019年度より「図書館部門」と「美術館部門」の二部門体制になっています。それぞれの部門の運営に学生委員(※)が参画し、図書館や美術館を本学学生や教職員、地域の皆様にとってより魅力あふれる場所に変えるべく、様々な活動を行っています。

図書館部門の活動紹介

今年度は4名の学生委員が図書館運営に参画し、月に1回開催される「図書館部門会議」に参加したり、イベントの企画・運営を行ったりする等、様々な活動を行いました。今回は、学生委員の皆さんが関わった企画についてご紹介します。

▶2つの企画「読書マラソン」と「世界『文学』地図」を開催しました

昨年12月、図書館1階にて、図書館部門の学生委員による2つの企画「読書マラソン」と「世界『文学』地図」を開催しました(※詳細については、p.3「企画展示」をご参照ください)。学生委員の皆さんは本企画の開催にあたり、図書館長・副館長をはじめとする図書館部門の教職員と事前打ち合わせを複数回実施し、さらに月に1回開催される「図書館部門会議」にて企画内容のプレゼンを行う等、組織の中で教職員の協力を仰ぎながら、準備を進めました。企画書や掲示用ポスターの作成、展示レイアウトの準備等、企画開催に要するすべての工程に関わり、試行錯誤の末になんとか無事に開催の日を迎えることが出来ました。

推薦文の募集は終了しましたが、図書展示はしばらく続ける予定です。図書館にお越しの際は、学生委員の皆さんの素敵なアイデアが散りばめられた展示コーナーをぜひ一度ご覧ください。

学生委員からのコメント

「読書マラソン」については、始めは普段本を読まない人に本を見つけるきっかけになれるような企画を目指したが、私だったら絶対に参加して景品の上限までもらうだろうなと思って、途中から私みたいな読書が大好きな学生のために企画した。私の書いた感想に立ち止まっている人や展示されている本が借りられているのを見ると感動した。読書好きの人が増えて本の話ができるようになったら嬉しいので、本をたくさん読んでください。(国際教養学科2年 松本 夏南さん)

学生委員からのコメント

「読書マラソン」は、普段読書をしない人にも本を読む機会を作ってほしいと思い発案した。一から企画をした経験はなく、参加者がいるか不安だったが、初めて感想の提出があった時はとてもうれしかった。ただ、学生の参加が限られてしまったため、閑雲に人の集まりそうなことをするのはなく、なぜ本を読まないのか、どうしたら本を読もうと思うかなど、参加者側の意見を聞いたり、集めたりしてから企画を発案するとよいことを学んだ。(国際教養学科3年 川越 真理恵さん)

学生委員からのコメント

私が企画した「世界『文学』地図」は海外の作品をより多くの学生に気軽に手に取ってほしいという思いから企画した。紹介作品をアンケートで募るもなかなか集まらないという事態になったのだが、様々な方のご協力のもと、なんとか形になり展示することができた。自分が思い描いたものが実現していくというのはとても楽しくやがいのあるものだった。次また企画することがあれば、今回の反省を含めもっと良いものを作りたい。(国際教養学科1年 塚本 日向子さん)



▶図書や雑誌を探しやすくするための企画「図書館インデックス」の準備を進めています

学生委員の皆さんや図書館部門教職員等と話し合いを重ねながら、「図書館インデックス」という企画の準備を進めています。図書館内の図書や雑誌は、様々な場所に分散して置かれており、館内マップを見ても希望する資料をうまく探せない学生が多いことから、書架の配置を視覚的に分かりやすく伝えるため、各フロアの書架付近に目印となるような掲示物(インデックス)を新たに設置する予定にしています。ぜひ楽しみにお待ちください。

学生委員からのコメント

「図書館インデックス」は、本の所在をもっと分かりやすくできたらと思い立案した。企画を実際に形にしていくのは難しいと感じることもあったが、図書館部門の先生や図書館職員の方々、学生委員のメンバーなどの周りの人の協力により、形になっていったことが嬉しかった。現在、ランゲージ・カフェの方とコラボしてデザインをお願いしていて、とても素敵なものが完成しそうなので、実際に図書館に設置される日をとても楽しみにしている。(食・健康学科2年 福島 愛香さん)



学生委員の皆さんが1年間の活動を振り返り、「私のリーダーシップ」というテーマで発表を行っている様子。(左から:福島さん、塚本さん、川越さん、松本さん)

(※)「学生委員」とは??

本学の「学生委員」に選ばれた学生は、本学教職員で構成される学内の委員会等に参画することにより、組織運営やリーダーシップなど、社会で求められる実践的な知識を学んでいます。

美術館部門の活動紹介

今年度は4名の学生委員が美術館部門の活動に参画し、「美術館部門会議」に参加したり、学外施設への本学所蔵作品の貸出や展示作業等に関わったりする等、様々な活動を行いました。今回は学生委員の皆さんが関わった企画や今後の予定等についてご紹介します。

▶ UR香椎若葉団地の「コミュニティライブラリー」内に、 本学所蔵の吉川幸作氏の作品を展示しました

昨年9月、UR香椎若葉団地(福岡市東区)に「コミュニティライブラリー」(※1)がオープンしました。本学美術館も「コミュニティライブラリー」の活性化に貢献すべく、様々な活動を行っています。

昨年12月より、美術館部門の学生委員が選定した本学所蔵の吉川幸作氏(※2)の作品を「コミュニティライブラリー」内に展示しています。学生委員の皆さんは、絵画作品の搬出や、現地での展示作業等にも関わり、不慣れな作業に試行錯誤しながらも、なんとか無事に展示作業を終えることが出来ました。展示作品は、UR香椎若葉団地にお住まいの皆さんに大変ご好評いただいています。

(※1) 福岡女子大学と独立行政法人都市再生機構九州支社(UR都市機構)との連携取り組みにより開設された、UR賃貸住宅では九州初の「コミュニティライブラリー」。「本とアートで繋がろう」をキーワードに、団地にお住まいの方からの寄贈本を陳列し、美術館等と連携してアートに関わるイベントを実施することで、お住まいの方同士の繋がりを外出を促すきっかけになることを目指している。

(※2) 1939年、佐賀県唐津市呼子町生まれ。2008年「博多慕情風景」と「九大箱崎キャンパス」展を福岡県立美術館にて開催。福岡を拠点に九州の風景を長年描き続けており、一年の大半を現地取材と絵画制作に捧げている。

学生委員からのコメント

美術館を訪れたとき、今までは作品をただ「見る」ことだけに意識が向いていたが、美術館部門での活動によって、企画の準備、運営などの影の仕事にも考えを巡らせることが増えたように感じる。私の身体の何倍もあるような大きな絵画はどうやって搬入されたのか? どのような意図を持ってそこに飾られているのか? など、また新たな視点から鑑賞する楽しみ方を見つけることが出来たのが良かった。
(国際教養学科1年 広松 咲紀さん)

学生委員からのコメント

美術館委員になり、自分からアイデアを出すことの難しさを実感した。以前までは、美術館委員といえばデザインをしたり、作品を制作したり、美術に関する企画を実施するイメージだった。しかし、実際に入ってみると、自分でやりたいことや企画のアイデアを出さないでまず活動が始まらないことに気づいた。そのため、次からは様々な物事からインスピレーションを受け、それを生かしたアイデアを積極的に提案する姿勢を示していきたい。
(国際教養学科1年 大河内 凜さん)

▶ 今後は企画展の関連イベント等にも関わっていく予定です

昨年7月、本学美術館主催の企画展「十五代 亀井味楽展」(※3)の関連イベントとして、図書館棟1階カフェ「Nanの木」前のテラススペースにて「初めての茶道」を開催しました。茶道の先生方がお茶の作法等について解説を行うとともに、参加者には味楽窯の茶器にてお茶が振る舞われ、猛暑の中での屋外イベントではありましたが、茶道にあまり馴染みのない方々も含め、本学学生や教職員等、多くの方々にご参加いただきました。

スケジュール等の都合により、学生委員の皆さんは本イベントには関わることが出来ませんでした。今後このような企画展関連イベントが開催される際には、準備等に関わっていただく予定にしています。

(※3) 福岡市内に窯(味楽窯)を構える茶陶「高取焼」(黒田藩の御用窯として繁栄。400余年の歴史を基盤に、伝統を守りながら革新的表現に挑み続けている)の現当主の十五代 亀井味楽氏(本学客員教授)の作品や、先代の十四代、先々代の十三代、そして十六代の亀井久彰氏の作品を紹介。

学生委員からのコメント

入試のときに初めて福女大に来て、廊下などの空間に美術品がたくさん置かれてあったことに驚いた。私はオープンキャンパスや受験などにより六校ほどの大学を訪ねたことがあるが、福女大ほど芸術品を飾っている大学はなかった。私は芸術がとても好きで、試験当日の思いもよらぬ収穫に心が躍り、試験へのモチベーションになった。

学生委員美術館部門の存在を知り、募集がかけられてすぐに応募した。今は美術館委員の一員として1年間過ごして、多くのことを学んだと実感している。先生や職員の方が私たち学生委員のことを常に見守り、手助けをしてくれた。大学の組織の運営に関わることが初めてでうまくいかなかったことも多かったが、周りの暖かさにいつも助けられている。この貴重な経験を胸にこれからも頑張っていきたい。
(環境科学科1年 池上 麒麟さん)



学生委員の皆さんが1年間の活動を振り返り、「私のリーダーシップ」というテーマで発表を行っている様子。(左から:大河内さん、池上さん、広松さん)



2024年度に10周年を迎えるランゲージ・カフェはFWUの“基本のき”に!

ラーニング・commons コーディネーター 金光 真美

この2022年度は、6月に附属図書館ホームページがリニューアルされ、その一角に、ラーニング・commonsのHPも新規開設しましたので、この機会にあらためて、ラーニング・commons、そして、ランゲージ・カフェについてご紹介したいと思います。

右がそのトップページにも掲載している構成図です。



美術館とも融合している図書館の中に存在するラーニング・commons。そのラーニング・commonsの中核的役割を担っているのがランゲージ・カフェという学生主体の活動です。カフェの基本活動は、ランチタイムに言語チームごとに学生が集まり、自主的に語学学習



や文化交流を行うというのですが、そこには、留学生や教員も加わり、時にはスペシャルイベントも開かれ、学内における交流の場としての役割も果たしています。

カフェの構成は、総合リーダーのもとに、各言語カフェのチームリーダーがいて、さらにそのサポートをするチームサポーターが存在します。ちょうど、新入生歓迎パーティーの時に、リーダーの一人がホワイトボード上で図説したものがありますので、左に掲載します。

運営側にいる学生全員をサポートと称して、年度末に表彰していますが、今年度も37名の学生サポーターが中心となり、英語・中国語・韓国語・フランス語・ドイツ語・スペイン語・ポーランド語の7チームが週1でカフェを開催し、修了式での表彰を受けました。

カフェでは、サポーター以外の参加者(ビジター)は、どのチームに参加するのも自由です。留学前にリーダー役をこなして成長して旅立つ学生もいれば、留学で大きく成長して戻ってからリーダーになる学生もいます。もちろん、就活や院進学

のために忙しくなって、ビジターとなる学生もいますし、留学先の現地語カフェを新たに立ち上げる学生もいます。また、留学はせず長年、活動を支えてくれるメンバーも多くいます。自分の立場を自分で決められる、グローバル基準の自由度の高さもカフェの特徴です。

本年度は、コロナから3年が過ぎ、自粛解禁となりましたが、そのために対面での開催経験が無いリーダーたちによる運営ともなり、また、夏過ぎからは、本格的に留学も再開されたため、慌ただしく過ぎましたが、そういった中であっても、文化交流イベントや学生による企画イベントが多く開催された1年でした。

福岡女子大学における、“基本のき”として、あたり前に、しかし、意義深くそこに存在する、本学の特徴的な活動の一つとして、10周年を迎えるべく、この10年目の日々に臨みたいと思います。



12/13ドイツ語カフェのクリスマスオーナメントづくり



1/13コラボカフェ:ポーランド語カフェの現地のスイーツ紹介(ケラムカ)と中国語カフェの切り絵(春)



1/18韓国語カフェによる、梨花女子大学とのオンライン交流会



11/2ランゲージカフェで、福岡女子大学100周年を祝う会



1/20修了式

附属図書館の1年 ~2022年度の取り組みを紹介します~

- 4月
 - 図書館の平日の開館時間が夜9時までまでに延長される(以前は夜8時まで)。
 - 学生主体の新入生オリエンテーション(ブースガイダンス)に初参加。当日掲示した図書館利用案内のポスターや配布資料については、図書館1Fに新たにコーナーを設け、その後も継続的に展示を行った。
 - 研究棟1Fの多目的演習スペースにて「Language Cafe」の新款イベントを開催。また別途オンライン(Zoom)にて、「Language Cafe」の新款イベントを開催。
 - ファースト・イヤー・ゼミの一環として、新入生を対象とする図書館ツアーを複数回開催。
- 5月
 - 「Language Cafe」の各カフェの活動がスタート(対面開催)。また活動の一環として「シンプル英会話」(English Cafe Advanced)をオンライン開催。
 - 図書館1F ラーニング・commonsにて、本学100周年記念イベント「翻訳家 上原裕美子氏講演会・対談」を開催。
 - 図書館1F ラーニング・commonsにて、女性リーダーシップセンターの品川啓介教授によるセミナー「イノベーションってなんだろう?」を開催。
 - 図書館1F 円型書架にて、女性リーダーシップセンターのキックオフシンポジウムを開催。
- 6月
 - 図書館1Fにて、本学美術館主催の企画展「十五代 亀井味楽展」がスタート。
 - 図書館ホームページのリニューアル公開。新たに作成された「美術館」や「ラーニング・commons」のホームページも同時に公開。
 - 図書館1F ラーニング・commonsにて、女性リーダーシップセンターの品川啓介教授によるセミナー「アイデア教室 一遊びながら理解するイノベーション」を開催。
 - 図書館1F BBCコーナーにて、ラーニング・commons企画「BBCリスニングリレー」を開催。
 - 「Language Cafe」の活動の一環として「EFUL (English for University Life)」(English Cafe Advanced)のオンライン開催。また「コース選択アドバイス会」(上級生が下級生にコース選択のノウハウを伝授)や複数のカフェ合同でコラボカフェを開催。
 - ラーニング・commons企画「英語ミュージカルを題材とした自己表現ワークショップ」をオンライン開催。
- 7月
 - 本学美術館主催の企画展「十五代 亀井味楽展」にちなんだ企画展示「焼き物から見る日本の伝統文化」が、図書館1F 円型書架にてスタート。また関連イベントとして、カフェ「Nanの木」前のテラススペースにて「初めての茶道」を開催。
 - 図書館1F ラーニング・commonsにて、女性リーダーシップセンターの品川啓介教授によるセミナー「基礎からのSDGs×Innovation」を開催。
 - 「Language Cafe」の活動の一環として「シンプル英会話」(English Cafe Advanced)をオンライン開催。また複数のカフェ合同で、コラボカフェを開催。
 - 向井学長と「Language Cafe」でリーダーを務める学生達との懇親会を開催。
- 8月
 - 「森崎和江さん追悼展示」(2022年6月15日に逝去された詩人・作家の森崎和江さんの追悼展示)が、図書館1Fにてスタート。
 - 夏休み期間中、「ほぼ定カフェ」と題し、「Language Cafe」を(ほぼ)定期的にオンライン開催する。

- 9月
 - 「Language Cafe」の活動の一環として、スペイン語カフェ主催のクッキングイベントを開催。また国際機関の人事担当者ゲストをお呼びし、スペシャルイベントをオンライン開催。
- 10月
 - Gale社のデータベース(Academic OneFile等)の無料トライアル開始。
 - ラーニング・commons企画「TOEIC講座 I」第1回、第2回開催。
 - 「Language Cafe」の活動の一環として、「Happy Halloween Week」を開催。
- 11月
 - 図書館1F ラーニング・commonsにて、本学100周年記念イベント「関美和氏 講演& TALK SESSION」を開催。
 - 福岡県・佐賀県大学図書館協議会 福岡地区研究会(対象:福岡県内の大学図書館職員等)をオンライン開催。
 - 「Language Cafe」の活動の一環として、研究棟1Fの多目的演習スペースにて、本学100周年を祝うためのイベント「Let's celebrate FWU 100th anniversary」を開催。
 - ラーニング・commons企画「TOEIC講座 II」第3回を開催。
 - 図書館1Fにて、女性リーダーシップセンター主催の「女性トップリーダー育成研修」を開催。
- 12月
 - 図書館1F BBCコーナーにて学生委員による企画「世界「文学」地図」と「読書マラソン」を開催。
 - 「学生・図書館懇談会」をオンライン開催。
 - 図書館蔵書点検の一部実施。
 - 「Language Cafe」の活動の一環として、研究棟1Fの多目的演習スペースにて、学生企画のクリスマスイベント「自己肯定感Happyをシェアしよう」を開催。また向井学長と「Language Cafe」でリーダーを務める学生達との懇親会を開催。
- 1月
 - 研究棟1Fの多目的演習スペースにて、「Language Cafe」の終了式(年間を通じ、サポーターとして活動を支えた学生達への表彰式やミニパーティー等)を開催。また「Language Cafe」の活動の一環として、梨花女子大学(韓国)との交流イベントをオンライン開催。
 - ラーニング・commons企画「TOEIC講座 II」第1回、第2回を開催。
 - 図書館蔵書点検の実施。各研究室に分散されている図書についても、感染拡大防止対策を行ったうえ、実施する。
- 2月
 - ラーニング・commons企画「TOEIC講座 II」第3回、また「TOEIC講座 III」第1回、第2回を開催。また「実践英会話力アッププロジェクト」を開催。
 - 「Language Cafe」の活動の一環として、学生企画イベント「自己肯定感×就活」を開催。
 - 本学美術館にて野見山暁治氏の絵画の寄贈にもなる感謝状授与式、テーブルカット式を開催。
- 3月
 - ラーニング・commons企画「TOEIC講座 III」第3回を開催。また「実践英会話力アッププロジェクト」を開催。



福岡女子大学附属図書館ニュース

編集発行: 福岡女子大学附属図書館

福岡市東区香住ヶ丘1丁目1番1号

TEL&FAX: 092-661-2416 ホームページ: <http://www.fwu.ac.jp/lib/>